

1. 単元名 楽しいふれあいコンサート（生活単元）
2. 単元目標

- 活動を通して、学校の友達や個学の仲間との交流を楽しむことができる。（人や物と関わる力）
- 自分の思いを自分なりの表現で相手に伝え、相手の思いを受け止めることができる。（表現力）
- 進んでふれあいコンサートに向けての話し合いや準備をすることができる。（問題解決力）
- 自分や友達の役割が分かり、協力して活動に参加できる。（問題解決力）
- 計画・実践に関わることにより、達成感を味わうことができる。（評価力）

3. ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

①単元について

この単元は、12月に行われるふれあいコンサートへ向けての計画や準備や振り返りを含む単元である。交流級の音楽の授業で学んだこと・学校間交流で培ったふれあいや発表への意欲・「わくわくお話ランド」や「お誕生会」にむけての活動・毎年のふれあいコンサートへ向けての体験などを生かして取り組むことができればよいと考える。聞き手に楽しんでもらいたいという願いを持つことにより、プログラムや役割分担を決める話し合い活動やふれあいコンサートを盛り上げるための活動（小物作りや飾り作りやPR活動など）で主体的な取り組みが期待できる。話し合い活動においては、自分の思いを自分なりの表現で相手に伝えたり、相手の思いを受け止めたりすることができると思われ。練習や準備や本番での協力は不可欠である。協力の大切さも実感させることができると思われる。コンサートを聴きにに来てくれる人に楽しんでもらいたいと願ったり、指導してくれるボランティアの先生や温かく見守ってくれる保護者に感謝の気持ちを抱くなど、いろいろな人との関わりを体験することもできる。いろいろな活動に精一杯取り組んだり、ふれあいコンサートを聴きにに来てくれた人の喜ぶ姿を見たりすることで、満足感を味わえる交流にしていきたい。ふれあいコンサートが成功体験として心に残り児童の自信につながっていけばよいと考える。

②知的好奇心について

児童が、ふれあいコンサートへの意欲や願いをさらにはっきりと意識し実現に向かうために、プログラムや役割分担を決める話し合いの時間を設定した。今まで、ふれあいコンサートのプログラムや役割分担決めは、ほとんど、教師が児童の願いや実態を考慮して行ってきた。本年度は、さらに意欲をもって取り組めるように、計画の段階から児童が主体的に関われる部分を入れていく。そうすることで、単元を通して主体的に取り組む意欲を持たせたい。

ふれあいコンサートのプログラムや役割分担決めの話し合いでは、ふれあいコンサートに関わる写真を見せ、何をしているところか考えさせる。さらに、ふれあいコンサートでの様子がはっきりと分かる写真も提示し、見に来てくれた児童の感想も読んで聞かせると、児童は、昨年度のコンサートの様子を思い出し、本年度もがんばって取り組みたいという思いをもつのではないかとと思われる。さらに、ボランティアの先生の「今年もふれあいコンサートをぜひ見たい。」という思いを映像を通して知ることにより、意欲を高めていくと思われる。このように、ふれあいコンサートへの知的好奇心の高まりにより、プログラムや役割分担決めの話し合いに意欲をもって取り組めるのではないかとと思われる。

もともと音楽が好きな児童であるが、ふれあいコンサートを毎年行うことにより、楽器や手話ソングに対する興味を持ち続けている。英語に関しても、楽しい授業を通して興味を持ち始めている。そこで、ふれあいコンサートで発表する曲も、児童の興味を生かして手話や英語を取り入れたものにし、更なる興味の持続を図っていきたい。

③関わり合い・ひびき合いについて

児童が参加する授業の形態は3～4つある。通常級の授業に参加する交流授業、特別支援学級が合同で行う特別支援学級合同授業、特別支援学級の各クラスごとに行う一斉授業や個別の授業などである。通常級の交流授業に参加することにより、児童は経験を広げ集団で学び行動するときのルールを身につけることができる。また、クラスごとに行う一斉授業や個別の授業では、一人ひとりの児童の実態に合わせた学習を行うことができる。本単元では、特別支援学級合同授業での学習を中心として進めていく。お互いの実態がよく分かってる小集団においては、密度の濃い関わり合いが可能であると考えたためである。

児童は、プログラムや役割分担決めの話し合いを経験してきているため、自分の思いを持つことに取り組みやすくなっている。その思いを自分なりの表現で相手に伝え、相手の思いを受け止めることができる経験も「朝の会」でしてきている。しかし、教師の投げかけを理解することが難しい児童・自分の思いや考えをもつことが難しい児童・自分の思いや考えを发表することに困難さを抱える児童・自分の思いを伝えることをためらってしまう児童などの実態がある。そのため、児童の実態に合った適切な支援をすることにより、関わり合いやひびき合いに近づきたいと考える。児童の思いを引き出すために教師から問いかけや投げかけをしたり、児童の思いが伝わるように教師が代弁したり文字カードを活用するなどして、話し合いにおける関わり合いやひびき合いをめざしていきたい。また、頑張っていることを認める声かけを多くして意欲の持続を図りたい。

4. 単元指導計画（全14時間 本時1/14）

時	学 習 活 動	主な支援・留意点【評価】
1 (本時) 2	○ ふれあいコンサートのプログラムを話し合おう。 ① (本時) ・ いつ、どこで行うかを知り、意欲を持つ。 ・ 歌や演奏曲を確かめ、その順番を話し合う。 ・ コンサートのプログラムを話し合う。 ・ 役割を話し合い、各自の受け持ちを決める。 ○ コンサート会場の飾り付けを話し合おう。 ① ・ 会場のどこに、何を、どう飾るか話し合う。 ・ 皆で作る飾りと担当を決めて作る飾りに分ける。 ・ 飾り作りの日程を知る。	・ 今年度も中学生との交流会をしたいという意欲を持たせる。 ・ 視聴覚教材を活用して交流会のイメージを喚起する。【問題設定力】 ・ 交流会の内容を話し合う。【問題解決力】

3 11	○プログラムの順番に沿って曲の練習をしよう。④ ・目当てを持って、楽しく練習する。 ・プロ歌手の指導を受け、表現力を高める。 ○会場の飾りを工夫して作ろう。② ・協力して、ていねいに飾りを作る。 ○コンサートを知らせる方法を話し合おう。① ・全校の友達や家族に、案内状や放送で知らせる。 ○案内状やポスターや放送原稿をかこう。② ・心をこめて、ていねいに案内を作る。	・毎日、朝の会でも目当てに向かって練習を行い、自信を持って活動できるように支援する。【評価力】 ・今までの自己紹介の仕方を振り返り、新しい方法を考えさせる。【表現力】 ・サツマイモの栄養や料理法について、栄養士さんの話を聞く。【情報活用力】 ・交流会に向けた活動がスムーズにいくよう支援する。【人やものに関わる力】
12 13	○前日の練習や準備をしっかりと行おう。② ・リハーサルや会場作りを行い、会への意欲を持つ。	・進んで交流するよう支援する。【人やものに関わる力】
14	○来場者に喜んでもらえるコンサートを開こう。(昼休み) ○コンサートを振り返り、よかったことを書こう。①	・楽しく演奏する。 ・交流してよかったことを書く。【表現力・評価力】

5. 本時について

(1) 本時目標

- ・自分たちでふれあいコンサートを開きたいという意欲を持つことができる。
- ・自分なりの表現で自分の思いを伝えることができる。
- ・仲間の思いを聞くことができる。

(2) 本時展開

学習活動	児童の活動						備考
1. 始めのあいさつをする。	○日直の合図を聞き、あいさつをする。						
2. 昨年のふれあいコンサートについて思い出す。	○昨年のコンサートの様子を思い出しながら、今年のコンサートの日時・場所を知り、意欲を高める。						・昨年のふれあいコンサートで使用した小物 ・写真（昨年のコンサートの様子） ・感想文 ・カード(月日・単元名・本時目標) ・DVD（手話講師の励まし）
3. 歌と演奏の順序を話し合って決める。	○歌と演奏の順序を話し合う。必要に応じて、各コンサート曲の一部を練習する。						・曲名カード (全体と個人) ・CD（4曲） ・楽器 ・歌詞カード「ジングルベル」 ・支援カード
4. コンサートのプログラムを話し合う。	○コンサートの進行について話し合う。						・カード 始めの言葉 曲紹介 歌と演奏（4曲） 連絡（感想のお願い） 終りの言葉 ・支援カード
5. 必要な役割を話し合う。	○自分たちでコンサートを進めるために、必要な役割を話し合って決める。						・お話ランドのプログラム ・カード 司会 始めの言葉 曲紹介 手話の説明 英語の説明 指揮 連絡 終りの言葉
6. 自分の役割を持つ。	○自分ができる役割を選び、みんなで話し合って一人ひとりの受け持ちを決める。						・名前カード 一人に2枚
7. 終わりのあいさつをする。	○日直の合図を聞き、あいさつをする。						

6. 実践を終えて

①単元全体を通しての子どもとの単元作りについて

本校では、毎年、特別支援学級児童が主催のコンサート「ふれあいコンサート」を開き、コンサートに向けての取り組みや練習の成果を全校に向けて紹介する交流の機会を設けている。通常級の児童や教職員の方々に見てもらって、感想や励ましの言葉をいただくことができるため、児童の自信にもつながっている。児童にとって「ふれあいコンサート」は、仲間と一緒に頑張って練習に取り組むべき行事であり、その頑張りを応援してくれる人がたくさんいて、「ふれあいコンサート」が終わると、頑張ったことを皆に認めてもらえるやりがいのあるイベントとなっている。

本単元では、もともと児童の中にあった、「仲間と一緒に頑張って取り組みたい。」という思いが元になっている。児童が、ふれあいコンサートへの意欲や願いをさらにはっきりと意識し実現に向かうために、プログラムや役割分担を決める話し合いの時間を設定した。児童の「コンサートを成功させたい。」という思いの高まりと重ねて、コンサート会場の飾り作りやPRにも取り組んだ。コンサート当日を迎えると、多くの児童や教職員の方から感想や励ましの言葉をいただき、児童の自信につながった。コンサート後に、心を込めてお世話になった方々にお礼を言うことができた。

②本時の課題が切実な課題となったかどうかについて

本時の課題は、「ふれあいコンサート」のプログラムと役割について話し合っただけであった。児童の様子から、プログラムについては、それほどさし迫った課題となっていなかった。役割決めについては、ぜひともやりたい役割や、できればやりたい役割をどの児童も持っていて、さし迫った課題となった。

③成果と課題

○児童は十分な時間をかけて取り組むことにより、学習内容を十分習得し、習得が進めば進むほど、学習に生き生きと取り組むことが分かった。今後もこのような児童の特性を生かし、取り組む内容を吟味して、学習計画を立てていきたい。児童が習得した内容を発表し、通常級の児童や教職員の方々に見てもらって感想や励ましの言葉をいただくことで、自信をつけさせたい。さらに、活動を支援してくださった方々がいることに気づき、感謝の気持ちを持ち、表現できるようになることをめざしたい。

○コンサートで手話ソングや英語の歌を扱ったことにより、手話や英語に対する興味が高まった。

○「ふれあいコンサート」のプログラムを決める話し合いの授業では、児童の実態に合った支援を行い、頑張りを認める声かけを多くしたため、話し合いを行うことができた。しかし、話し合い活動が難しい児童もいるため、話し合う内容を、児童がよりさし迫って取り組みたいと思う内容にしていくことが大切である。また、話し合うことは難しくても、活動することによってよりよい関わりや高め合いが可能になるであろう。今後は、活動による関わり合いや高め合いの充実にも留意して取り組みたい。